



積善

岩城中学校だより3月号

にんげんばんじさいおう うま

人間万事塞翁が馬

令和7年度卒業生に贈る言葉です。

「人生における幸福や不幸は表面的には判断できず、予測がつかないことを示しています。良いことが悪いことの前触れになる場合

があれば、逆に悪いことが幸運のきっかけになることもあります。そのため目先の出来事に一喜一憂せず、長期的な視点で物事を捉えることの大切さを教える言葉です。

卒業式では、ミラノコルティナ五輪にスノーボードの競技で出場した平野歩夢選手を紹介しました。前回北京五輪金メダリストの彼は、今大会の1か月前に2箇所の骨折を含む全治3か月の大けがを負います。治りきらないまま出場して決勝7位の信じられない好成績を収めました。競技後のインタビューに、「**自分の限界にチャレンジできて、こうやって生きて戻って来られてよかった。自分の中では無駄なものは何一つない。また自分が進化して、そういった姿を届けられるように、自分らしくやっていきたいなと思っています**」と答えています。その様子は、直前まで生死をかけて競技に臨んでいたとは思えないほど穏やかで、淡々と答えていました。

本校の生徒に限らず、現代の子供は幸せであるし、ある意味不幸だとも感じます。物心両面において、望む物がほぼ手の届く範囲にあり、他から認められるほどの努力をしなくても手に入ることもあります。しかしこれは子供たちには責任がありません。ただ、そのような世の中であっても、少し外に目を向けると自身の目標を達成するために必死になって取り組んでいる人がいることを知っておいてほしい。

これは最近、私が最も驚いた光景であり明らかに次元が違う話です。先のWBCの試合中、リードされた状況にもかかわらず、ベンチ内でリラックスした表情で時折笑顔すら見せる大谷翔平選手が映し出されました。彼は敗戦後に「優勝以外は失敗」とはっきり言っています。しかし、試合中は楽しんでいるとしか表現できない表情でした。事前に結果が分かっている人などおらず、また結果を変えることはできず受け入れるしかない。であるからこそ「人間万事塞翁が馬」好きなことを思いっきり楽しめている彼らは、どのような結果になろうとも全て受け入れ、また次の目標を定めて新たな歩みをスタートできるのでしょう。

令和7年度、岩城中教職員は皆、近くで頑張っている生徒たちを素直に応援し、自分にできることを見付けて微力ながらも誠実に支援してきました。今はまだはっきりとした成果として表れていない面もあり

ますが、4月からも途中経過に一喜一憂せず、目指すゴールに向けて生徒と一緒に歩んでいきます。



1年間お世話になりました。 校長

卓球部『今治地区中学生卓球大会 3/14』 ソフトテニス部『吉野病院杯ソフトテニス大会』 3/ 20

男子団体の部
二位 第一位



第3位



野球部『第43回全日本少年軟式野球愛媛県大会』 3/21

